

平成25年度 功 勞 賞 受 賞 者

(市町村体育協会推薦)

番号	氏 名	ス ポ ー ツ 関 係 歴	推薦団体	推 薦 理 由
1	こんた けんいち 今田 賢一	昭和53年 4月～平成 7年 3月 東根市体育協会 評議員 平成 7年 4月～13年 3月 東根市体育協会 理事 平成13年 4月～21年 3月 東根市体育協会 副会長 平成21年 4月～25年 3月 東根市体育協会 会長 平成13年 4月～23年 3月 北村山地区体協連絡協議会 理事、会長 平成 9年～21年 3月 東根市陸上競技協会 会長	東根市 体育協会	永年にわたり、東根市体育協会評議員、理事、副会長、会長を歴任され、会長就任後は、総合型地域スポーツクラブ「マイ・スポーツひがしね」を本会に統合し、組織の発展とスポーツの振興に尽力された。また、東根市陸上競技協会会長として、長きにわたり地域における陸上競技の振興と発展に尽くされた。他にも、平成13年度から8年にわたり、県体育協会評議員として運営に貢献された。
2	こばやし しんや 小林 伸也	昭和59年 5月～平成 6年 5月 川西町体育協会評議員 平成 6年 5月～10年 5月 川西町体育協会理事(小松スキークラブ会長) 平成15年 4月～19年 4月 川西町体育協会理事(川西ゴルフクラブ会長) 平成19年 4月～21年 4月 川西町体育協会副会長・川西町スポーツ少年団本部長 平成21年 4月～25年 4月 川西町体育協会会長	川西町 体育協会	永年にわたり、川西町体育協会理事、副会長、会長の役職を務められ、組織の充実発展に多大な貢献をされた。川西町体育協会と川西町スポーツ少年団を設立母体に、総合型地域スポーツクラブ設立準備委員会を立ち上げ、平成21年「スポーツかわにし」を設立するなど、町民の生涯スポーツ振興及び活性化に尽力された。また、日本体育協会「トッパスリート派遣事業」等を取り入れ、特にジュニア育成への功績は大である。
3	しぶや ますお 澁谷 益生	平成元年 4月～ 9年 3月 鶴岡市体育協会 常任理事 平成 9年 4月～24年 3月 鶴岡市体育協会 理事長 平成24年 4月～25年 3月 NPO法人鶴岡市体育協会 専務理事	鶴岡市 体育協会	平成元年から鶴岡市体育協会の役員として、平成9年から平成24年までは理事長(専務理事)として、長きにわたりスポーツの普及・発展に尽力された。また、平成9年から平成22年まで、山形県体育協会の評議員としても尽力された。永年にわたり、鶴岡市体育協会の役員として、競技スポーツの普及・強化を含め、市民の生涯スポーツ振興に果たされた功績は極めて大である。

(競技団体推薦)

番号	氏 名	ス ポ ー ツ 関 係 歴	推薦団体	推 薦 理 由
4	かねこ よしお 兼子 善男	昭和48年 5月～平成 9年 4月 寒河江西村山地区水泳連盟 事務局長 平成 9年 5月～15年 4月 寒河江西村山地区水泳連盟 理事長 平成15年 5月～25年 4月 寒河江西村山地区水泳連盟 副会長 平成25年 5月～現在 寒河江西村山地区水泳連盟 会長 平成25年 4月～現在 山形県水泳連盟 副会長	山形県 水泳連盟	永年にわたり、山形県及び寒河江西村山地区の水泳普及振興に貢献された。近代水泳の普及振興のほか、日本泳法(古式泳法)の伝承活動に尽力されている。伝承を続けている日本泳法水府流太田派が、平成24年7月に寒河江市無形文化財に指定されている。
5	ごとう ちゅうじ 後藤 忠二	平成 3年 4月～23年 3月 山形陸上競技協会 理事 平成23年 4月～24年 3月 山形陸上競技協会 副会長(理事) 平成24年 4月～現在 一般財団法人山形陸上競技協会 副会長(理事)	山形陸上 競技協会	山形陸上競技協会理事として、長年にわたり組織運営に携わり、平21年から本協会の組織改革検討委員として「法人化」の推進、組織改革に尽力され、平成24年4月1日から法人の業務執行理事・副会長の役職として山形県陸上競技界の発展に貢献された。陸上競技を通して、本県のスポーツ発展のために寄与された功績は大である。
6	すがわら かずとし 菅原 和敏	昭和56年 4月～平成 5年 3月 山形県バレーボール協会 理事 平成 5年 4月～ 7年 3月 山形県バレーボール協会 常任理事・指導委員長 平成18年 4月～20年 3月 山形県バレーボール協会 顧問(高体連専門部長) 平成21年 4月～25年 3月 山形県バレーボール協会 副会長 平成25年 4月～現在 山形県バレーボール協会 会長	山形県 バレーボール 協会	昭和45年4月に米沢工業高校に奉職以来、男子バレーボール部の指導に傾注し、昭和48年山形南高校に転勤してからは、常に県内大会のベスト4を占め、その間全国高校選手権大会に2度出場するとともに、平成10年の春高バレーでは全国ベスト4の栄冠に輝いた。平成18年山辺高校長に着任時、東北・山形県高体連バレーボール専門部長に就任し、高校バレーボールの強化・普及に尽力された。また、平成21年には本県協会副会長兼山形地区バレーボール協会会長に就任し、パイオニアのVリーグホームゲーム開催に尽力するとともに、小学生への競技普及に努めている。
7	ほしかわ えみ 星川 恵美	昭和58年 4月～現在 山形県体操協会 副会長 " 山形県ジュニア体操協議会 会長 " 東北ジュニア体操連盟 理事長	山形県 体操協会	昭和48年から40年の長きにわたり、ジュニア指導者として指導力の向上に寄与してきたとともに、本県開催のべには全国体をはじめ、東北ジュニア大会等の諸事業の運営に尽力し、山形県体操協会の発展に寄与した功績は大きく誠に顕著である。
8	たかなし としひろ 高梨 俊廣	平成11年 4月～現在 山形県体操協会 副会長 " 酒田地区体操協会 会長	山形県 体操協会	永年、県中学校体育連盟の指導者として、全国大会入賞者育成並びに指導者の育成に寄与してきたとともに、中体連体操専門部長及び酒田地区体操協会会長として、山形県体操協会の発展に尽力した功績は大きく誠に顕著である。

番号	氏名	スポーツ関係歴	推薦団体	推薦理由
9	ほそや としもり 細谷 壽守	昭和45年 4月～55年 3月 山形県バスケットボール協会 強化部長、常任理事 昭和55年 4月～平成 2年 3月 山形県バスケットボール協会 理事長 平成 2年 4月～ 7年 3月 山形県バスケットボール協会 参与 平成 7年 4月～ 9年 3月 山形県バスケットボール協会 副会長 " 県高体連バスケットボール専門部 部長 平成 9年 4月～23年 3月 山形県バスケットボール協会教員連盟 会長 " 山形市バスケットボール協会 会長 平成24年 4月～現在 山形県バスケットボール協会 顧問	山形県 バスケットボール 協会	氏は、選手としてインターハイ出場、インカレ東北大会優勝、高校教員として国体教員の部に20年連続出場し、長野大会では全国3位に入賞した。高校、大学在学時の全国大会における活躍とともに、主将として県教員チームを牽引してきた功績は非常に大きい。高校男子チームの指導者として、全国大会等で活躍するチームを育成してきた実績とともに、赴任校ほぼ全てのチームを県大会ベスト4以上の成績に育て上げた指導力は特筆される。また、国体成年男子の3連覇、「べにばな国体」における大躍進の礎を築かれ、本県バスケットボール協会の歴史書「山形県バスケットボール協会20世紀の歩み」の刊行に尽力されるなど、半世紀にわたり本県バスケットボール競技の普及と発展に多大な貢献をされた。本協会役員としても、数々の全国大会・国際大会の運営、強化に中心的な役割を果たしてきた。
10	すずき かずゆき 鈴木 和之	昭和56年 4月～61年 3月 山形県ソフトテニス連盟 監事 平成 5年 4月～16年 3月 山形県ソフトテニス連盟 理事 平成17年 4月～25年12月 山形県ソフトテニス連盟 副理事長	山形県 ソフトテニス 連盟	山形地区、山形県連盟の役職の傍ら、ジュニア、中学生の指導にも積極的に関わり優秀な選手を育成し、地域のソフトテニスの振興と発展に寄与された。平成17年からは、山形地区ソフトテニス連盟の理事長としても組織の中心的立場で各種大会運営に尽力された。また、平成18年から21年までは、国体山形県代表の成年女子監督として、天皇杯得点にも貢献された。
11	かねた けんいち 金田 賢一	昭和49年 4月～現在 山形県野球連盟 審判員 平成15年 4月～現在 山形県野球連盟 理事 昭和50年 4月～平成11年 3月 新庄地区野球連盟 理事 平成15年 4月～現在 新庄地区野球連盟 副会長 平成 8年 4月～現在 東根市野球協会 事務局長、副会長 昭和61年10月～現在 日本体育協会スポーツ少年団指導員 平成19年 4月～現在 東根市体育協会副会長	山形県 野球連盟	長年にわたり、山形県野球連盟、新庄地区野球連盟役員及び審判員として、本県野球界の発展のため尽力されるとともに、地元東根市体育協会、野球協会役員として、地域における体育・野球の発展のために貢献された。また、平成20年から山形県体育協会評議員としても活躍されている。
12	まつだ よしのり 松田 好功	昭和53年 4月～現在 新庄地区ソフトボール協会 理事長 昭和55年 4月～平成20年 3月 最北地区ソフトボール協会 理事 平成20年 4月～現在 最北地区ソフトボール協会 理事長 昭和60年 4月～平成 2年 3月 最北地区高体連ソフトボール専門部委員長 平成20年 1月～現在 山形県ソフトボール協会 常務理事(指導者委員長)	山形県 ソフトボール 協会	昭和48年から審判員として地域における審判業務に精励されるとともに、昭和52年からは新庄東高等学校における部活動の顧問(監督)として指導に尽力された。また、昭和53年から新庄地区協会及び最北地区協会、平成20年からは山形県協会においても要職を担っており、組織の運営・育成にも尽力されている。特に、平成20年からは指導委員長として、指導者の養成に指導的役割を果たされ、その功績は誠に顕著である。
13	あべ えいすけ 阿部 英典	昭和62年 4月～ 8年 3月 山形県バドミントン協会 常務理事 昭和36年 4月～38年 3月 山形地区バドミントン協会 理事 昭和38年 4月～61年 3月 山形地区バドミントン協会 常務理事 昭和61年 4月～平成 8年 3月 山形地区バドミントン協会 理事長 平成 8年 4月～25年 3月 山形地区バドミントン協会 副会長	山形県 バドミントン 協会	永年にわたり、山形県バドミントン協会の常務理事として、また、山形地区バドミントン協会の役員として組織の取りまとめや協会運営に尽力された。また、バドミントンの普及・発展はもとより、山形地区、県、東北、全国大会の県内開催時は率先して大会運営に携わり、協会員を取りまとめた功績は顕著である。
14	さいとう まつたろう 齋藤 松太郎	平成 2年 4月～現在 山形県剣道連盟 評議員 平成 9年 4月～現在 山形県剣道連盟 監事 (現 山形市剣道連盟評議員)	山形県 剣道連盟	永年、県剣道連盟の評議員並びに監事として、組織の充実・改革(運営・法人化への対応等)に高邁な識見の基に指導力を発揮され、連盟の発展に多大な功績を残した。県及び地区剣道の振興・発展に大きな事績を挙げ、本県剣道界の充実発展に寄与している。また、地域の剣道スポーツ少年団や一般剣士への剣道指導に適切な指導・助言を与えるなど、県剣道連盟のアドバイザーとしてもその存在は大きい。
15	こくぶん きよみつ 國分 清貢	昭和48年 4月～現在 日本山岳協会 自然保護指導員 昭和54年 4月～平成22年 3月 山形県山岳連盟 理事 昭和61年 4月～22年 3月 山形県山岳連盟理事(自然保護委員) 平成 9年 4月～11年 3月 山形県山岳連盟理事(自然保護委員会委員長)	山形県 山岳連盟	昭和49年から県警遭難救助訓練講師を務め、山岳遭難の予防と捜索活動の精錬等加盟団体・県内関係機関の遭難救助に関する技術向上に多大な貢献をされた。県山岳連盟理事に就任後、自然保護委員及び自然保護委員長を長年務めた。現在は、森林管理署のボランティア活動、地元山岳のパトロールや登山道整備など地域の自然保護活動を通して、青少年の自然に親しむ活動の指導に従事している。

番号	氏名	スポーツ関係歴	推薦団体	推薦理由
16	ごとう まさひろ 後藤 正博	昭和46年 4月～58年 3月 山形県アーチェリー協会 事務局長 昭和58年 4月～現在 山形県アーチェリー協会 理事長 平成 6年 3月～現在 東北アーチェリー連盟 理事長 平成19年 4月～22年 3月 全日本アーチェリー連盟 理事(競技部・総務部)	山形県 アーチェリー 協会	永年にわたり、県アーチェリー協会の事務局長及び理事長として、本協会の振興・発展に貢献してきた。理事長としては「べにばな国体」やその他大会開催並び協会運営等に携わり、31年の長きを務められた。また、東北アーチェリー連盟の理事及び理事長として、東北地区の牽引役を果たし、全日本アーチェリー連盟の理事としても、競技部及び総務部で全国の競技力向上に努めてこられた。
17	たかはし しゅんいち 高橋 春一	昭和61年 4月～現在 山形県アーチェリー協会 副会長	山形県 アーチェリー 協会	昭和46年、県アーチェリー協会創設より色々と尽力され、本協会の基盤を築いてこられた。また、昭和61年より28年間の長きにわたり、県協会副会長として協会事業に尽力されている。
18	いしい そうきち 石井 宗吉	平成 5年 4月～現在 山形市クレー射撃協会 理事長	山形県 クレー射撃 協会	山形市クレー射撃協会の理事長として、山形市体育協会の指導のもと、クレー射撃競技の普及・発展に貢献されるとともに、競技強化に尽力された功績は多大である。また、競技大会の防犯と安全を重点的に考え、東北大会、国体県予選会に出場し、選手としても寄与された。

平成25年度 功労賞(ライオンズスポーツ賞)受賞者

(競技団体推薦)

番号	氏名	スポーツ関係歴	推薦団体	推薦理由
1	きむら ふみひろ 木村 文浩	平成25年度全国高等学校総合体育大会 カヌー競技大会 男子K-2 200m 優勝 古澤康太・松田廉(谷地高校) 男子K-2 500m 優勝 古澤康太・松田廉(谷地高校) 男子K-4 200m 優勝 古澤康太・松田廉・細谷亮一・三澤涼太(谷地高校)	山形県 カヌー協会	20年以上にわたってカヌー指導を行い、多くの選手を全国優勝に導いている。その指導は、近代的な指導法に現役時代から培った精神的指導を取り入れており、生徒のやる気を引き出している。日々の研鑽は他の模範であり、例年の全国優勝や入賞実績をみるに、本県スポーツ界への貢献は非常に大きい。
2	あしの たかし 芦野 貴士	第68回国民体育大会 カヌー競技 少年男子K-2 200m 優勝 古澤康太・松田廉(谷地高校) 少年男子K-2 500m 優勝 古澤康太・松田廉(谷地高校) 少年男子K-4 200m 優勝 細谷亮一・眞壁涼・三澤涼太・菊池憲斗(県選抜) 少年男子K-4 500m 優勝 細谷亮一・眞壁涼・三澤涼太・菊池憲斗(県選抜)	山形県 カヌー協会	高校・大学在学中、国民体育大会等多くの大会で優勝・入賞を果たし、本県カヌー界を牽引してきた。その後、県立谷地高等学校カヌー部の顧問となり、今年度は国体監督として学校の枠を超えた指導により県勢の優勝に導き、本県スポーツの活動に大きく寄与された。
3	はしもと よしひさ 橋本 佳久	JOCジュニアオリンピックカップ平成25年度全国中学生カヌー大会 男子K-1 優勝 菊池憲斗(西川中) 男子K-2 優勝 菊池憲斗・木村大翔(西川中) 男子K-4 優勝 菊池憲斗・木村大翔・柏倉優太・佐藤旭(西川中)	山形県 カヌー協会	少人数部員のカヌー部にあり、その特性を活かし選手たちの個々の力を引き出す指導で、全国大会優勝に導いている。特に今年度は、菊池憲斗選手の3冠という輝かしい成績を達成された。その指導は単に競技指導に留まらず、あいさつを通じた人間教育や心の育成も合わせ持っている。カヌーに取り組む姿勢は、県内高校カヌー界への橋渡しとなり、本県スポーツ界の一翼を担っている。
4	ふくしま まさと 福島 雅人	平成25年度全日本実業団バスケットボール競技大会 優勝 (山形銀行ライヤーズ) 第9回全日本社会人バスケットボール選手権大会 優勝 (山形銀行ライヤーズ)	山形県 バスケットボール協会	山形銀行女子バスケットボール部を、年間2度の優勝(2年連続)に導いた。また、年間を通して小・中学生対象のクリニックや高校生・大学生との合同練習会・練習試合を数多く実施し、本県のバスケットボール技術向上、一貫強化及び普及に多大な貢献をされている。

平成25年度 特別賞受賞者

氏名	受賞事項	推薦理由
ういりあむそん しえん ウィリアムソン 師円	冬季五輪出場を決めた山形県初の高校生	オリンピック冬季競技大会において、高校生が出場権を獲得した県内初の快挙であり、スピードスケートの競技力向上の指針として、また、本県スポーツ界の振興・発展に大いに寄与するものである。